授業科目	保育内容「表現」の指導法（造形）					実務家教員担当科目	-
単位	1	履修	選択	開講年次	2	開講時期	前期
担当教員	櫻井　裕介						
授業概要	本科目は、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「認定こども園教育・保育要領」における領域「表現（造形・絵画表現）」に基づき、造形表現の楽しさや面白さを体得できるような造形実技演習、教材研究を通して、保育者に必要な感性の表現を養えるよう授業を展開する。また、子どもの発達段階に即した豊かな感性を育む表現の重要性について解説し、修得した技能や知識を、保育実践の場で応用できるように授業を展開する。 ＊認可幼稚園（主任教諭含む）、認可保育所園長経験から園や子どもの画像や映像を通して、より具体的で実践的な授業展開に取り組む。						
授業形態	演習			授業方法	パフォーマンス		

学生が達成すべき行動目標	
標準的レベル	1. 領域「表現（造形・絵画表現）」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身につけていく内容と指導上の留意点を理解 している。 2. 幼児の認識や思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 3. 領域「表現（造形・絵画表現）」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器の及び教材の活用法を理解し、保育の 構想に活用する事ができる。 4. 様々な素材、道具に慣れ親しみ、豊かな表現ができるようになる。 5. 領域「表現（造形・絵画表現）」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想し実践することができる。
理想的レベル	1. 様々な素材、道具を使いこなし、子どもの発達過程を理解した保育活動を展開することができる。 2. 領域「表現（造形・絵画表現）」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想し、保育者として子どもに合わせた環 境を構成することができる。 3. 子どもの主体的な学びと協同活動を促す保育を構成することができる。

評価方法・評価割合		
評価方法	評価割合（数値）	備考
試験		
小テスト		
レポート	40%	
発表（口頭、プレゼンテーション）	50%	
レポート外の提出物		
その他	10%	

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	○	DP2	-	DP3	-	DP4	-	DP5	○	ナンバリング	CH21311J

学習課題（予習・復習）	1 回の学習目安（時間）

復習：講義内容を復習する。	1

授業計画	
第 1 回	授業ガイダンス 幼児と表現 自由とは
第 2 回	造形表現１ 身近な素材を用いた工作⑴ 【袋人形】
第 3 回	造形表現２ 身近な素材を用いた工作⑵ 【袋人形】
第 4 回	造形表現３ 身近な素材を用いたおもちゃ作り（保育のねらいと活動内容） 【凧】上がる工夫と幼児の自由
第 5 回	造形表現４ 季節の壁面装飾 【アイデアスケッチ・材料集め】
第 6 回	造形表現４ 季節の壁面装飾 【壁面装飾制作①】
第 7 回	造形表現４ 季節の壁面装飾 【壁面装飾制作②】
第 8 回	造形表現４ 季節の壁面装飾 【発表会・相互鑑賞・レポート】
第 9 回	絵画表現１ 手による描画活動⑴ 【手形アート・フィンガーペイント】
第 10 回	【スライム遊び】 準備物と安全性
第 11 回	絵画表現３ 身近な材料を用いた絵画技法⑴

	【色鉛筆・クレヨン・クレパスの違いなど】
第 12 回	絵画表現４ 身近な材料を用いた絵画技法⑵ 【絵の具など】
第 13 回	造形表現 【おもちゃ作り】 ねらいと内容と教育的価値について
第 14 回	指導案作成１ 造形・絵画表現の指導案作り⑴ 【指導案作成】 ねらいと内容と教育的価値について
第 15 回	指導案作成２ 造形・絵画表現の指導案作り⑵ 【発表会・相互鑑賞・レポート】
テキスト	「幼稚園教育要領解説」、「保育所保育指針解説」. フレーベル館
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 編著：今井真理，共著者：長谷川恭子，麓洋介，新関伸也，櫻井裕介，福井一尊他. 保育表現技術の実践ワーク「かんじる・かんがえる・つくる・つたえる」 保育出版社 2016 年
課題に対するフィードバックの方法	課題および発表内容は、授業内で適宜連絡する。課題や作品、発表については都度、口頭にてフィードバックを行う。 レポートは個人が特定できないように配慮し、内容について全体へ口頭でフィードバックする。
学生へのメッセージ・コメント	絵を描く・ものを作るなどの時間をとったり、美術鑑賞や造形関連の書籍および絵本などにふれたり、美術・図画工作に興味と関心をもち日常生活に取り入れる意識をすること。また、子どもの造形表現に関する特徴や特性、興味・関心についても日々の活動や実習などでよく観察すること。 将来、自分が保育者になるという自覚を常にもって授業に参加してください。また、授業前・授業中・授業後を問わず、日常的に子どもを意識し、子どもの活動へと結びつけることを考えてください。 造形表現に関わる基礎的な知識や技能を養い、応用的な想像力や創造性も身に付けていきましょう。